

大学

企画課管理用 教 一 A 一 3

推進主体	学生センター教務課
責任者	学生センター所長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	一	A	③専門教育を補完し、すべての学生に推奨するに値する全学共通科目の設置 (SDGs関連科目の設置等)	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

専門教育を補完し、専門教育の成果に深みと幅を与え、学生の在学中と卒業後の生活の充実に資するために、すべての学生に推奨するに値する全学共通科目を設置する。  
 科目の設置にあたっては、科目を精選するために、科目数の上限を設置するとともに、定期的に設置科目の見直しを行うものとし、SDGsを達成するための関連科目の設置を検討する。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

外国語、スポーツ・健康科学、情報科目を除いた科目数の上限を60科目とし、令和3年度中に科目の精選を実施し、令和4年度中にカリキュラムを策定し、令和5年度からの科目開設を目指すこととする。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	→ 科目の決定		→ 授業計画検討		→ 全学共通科目スタート		
							→ 科目見直し

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

## (様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
(2022年度) 令和4年度	全学共通科目運営委員会にて開設科目を精選のうえ、授業計画を策定する。策定された授業科目について、令和5年度開講に向けて、カリキュラム設定の準備を実施する。	令和3年度中に、開設科目数の上限を60科目として、科目を精選し、60科目の中から令和5年度に開講する科目の授業計画を策定した。また、並行して卒業要件への参入科目等、カリキュラム設定を行った。 SDGsに関する科目は、「ジェンダーと文化」、「ボランティア論」、「エコロジー」、「環境・エネルギーの化学」、「キャリア・デザイン」等の科目を設置した。今後も科目の見直しに合わせて充実を図っていく。  ★進捗段階:「展開完了」
(2023年度) 令和5年度	全学共通科目の運用を開始するとともに、令和4年度に策定した全学共通科目の見直しの方針に基づき、履修者数、成績分布等のデータ分析を行う。令和5年度～令和8年度までのデータを分析し、令和9年度に科目の見直しを検討し、令和10年度に必要な応じて見直しを実施する。	対象科目の令和5年度履修者数および成績分布のデータを集計し、全学共通科目運営委員会にて共有した。今後、単年度および複数年度の履修状況を分析しながら、逐次、開設科目の設置状況を検討していく。 ただし、当初予定されていなかった女子大学との統合を踏まえ、今後の全学共通科目の設置方針(SDGs関連科目含む)そのものを見直す必要があるかを検討することが今後の課題となる。  ★進捗段階:「展開完了」
(2024年度) 令和6年度	引き続き、令和6年度対象科目の履修者数、成績分布等のデータ分析を行う。 併せて、女子大学との統合に向けて、国際文化交流学部のカリキュラムの同一性を保持する期間、およびその後の期間に、それぞれ全学共通科目をどのように設置するかを検討を始める。	対象科目の令和5年度履修者数および成績分布のデータを集計し、成績分布に偏りが見られたため、秀(S)と優(A)の割合について、一定に納めるようにガイドラインを策定した。 女子大学との統合にあたっては、令和11年度までは国際文化交流学部のカリキュラムの同一性を保持する必要があるため、全学共通科目は従来の運用を継続することとしたうえで、国際文化交流学部の学生は、従来の特別聴講制度に準ずる形で履修を認め、卒業必要単位として認めることとする。 令和12年度以降の運用については、将来計画委員会にて国際文化交流学部のカリキュラムを含めた具体的な方針が定まり次第検討を開始する。  ★進捗段階:「展開完了」
(2025年度) 令和7年度	引き続き、令和7年度対象科目の履修者数、成績分布等のデータ分析を行う。 将来計画委員会にて、国際文化交流学部の方針が決まるまでは、既存ルールの中で科目の見直しを検討する。	全学共通教育運営委員会にて令和6年度の対象科目の履修者数、成績分布等のデータ分析を継続的に行った。また、学長からの文理融合科目の増強の付託を受け、全学共通教育運営委員会にて、どのような対応が取り得るか検討を行った。これまでの議論による60科目の枠組みは維持した上で、今後の全学的なカリキュラムの見直しが見込まれる令和12年度以降の改編に向け、実証実験的に一定条件下の新規科目開講を認める「特例的な科目開設ルール」を設けるに至った。これにより、令和8年度から新規文理融合科目「文化財と化学」が開設されることとなった。  ★進捗段階:「展開完了」
(2026年度) 令和8年度	引き続き、令和8年度対象科目の履修者数、成績分布等のデータ分析を継続する。 また、国際文化交流学部の完成年度となる令和12年度以降の全学的カリキュラムの改編を見据え、基礎教養科目においても現行カリキュラムの見直しが求められる。その方針を蓄積したデータ(履修者数/分布・成績分布・FDアンケート)等や委員会内での議論に基づき検討していく。	